

『古代アメリカ』2, 1999, pp. 39-58

＜研究ノート＞

北部マヤ低地の編年再考

—チチェン・イツァーにおける空間構造の分析から—

村上達也

(日本学術振興会特別研究員)

【キーワード】

チチェン・イツァー、北部マヤ低地、空間構造、王権イデオロギー、編年

Chichen Itza, Northern Maya Lowlands, Spatial Structure, Kingship Ideology, Chronology

1. 問題の所在

古代マヤ文明の全盛期とされる古典期・南部低地の諸センターは、紀元9-10世紀にかけて次々と放棄される。これが、いわゆる「古典期マヤ文明の崩壊」と呼ばれている現象であるが、北部低地では、南部低地の諸センターの放棄と並行して、プウク地域で「プウク様式」と呼ばれる建築様式が広まり、ウシュマルを始めとする大センターが生み出されていく（図1）。プウク地域の勃興と並んで、東海岸ではコバーが一大勢力を築いていた。さらに、これらの二大センターと並行して、ちょうどそれらの中間に位置するチチェン・イツァーが勢力を拡大する。そして、現在のところ、このチチェン・イツァーの勃興をもって、プウク地域ならびにコバーが衰退していくとされている [Robles and Andrews 1986]。この新たな新興国家チチェン・イツァーでは、以前の「プウク様式」に加えて、「トルテカ様式」と呼ばれる従来の古典期マヤの建築・彫刻には見られない様式が広まり、この「変化」は伝統的にはメキシコ中央高原のトルテカ族の侵入 [Tozzer 1957]、あるいはメキシコ湾岸のプトゥン・マヤ族の侵入による結果とされ [Thompson 1970]、これが後古典期の始まりとされた [Andrews IV 1965; cf. Kubler 1961]（表1）。つまり、古典期と後古典期の相違は、民族の違いを示すとともに、そこに起因する建築様式、政治組織の違いとされたのである。

この伝統的な歴史の再構成は、主に『チラム・バラムの書』 [Barrera V. y Rendón 1963などを参照] を初めとするエスノヒストリー資料と建築様式の分析によっているが、この図式をもとに土器も分類された [Brainerd 1958; Smith 1971]。しかしながら、近年における調査の進展に伴って、このような時期区分の有効性が問題視され始めている [Andrews et al. 1988; Andrews IV 1970; Ball 1979; Bey et al. 1997; Chase and Chase 1982; Dunning and Kowalski 1994; Freidel 1992; Gallareta et al. 1989; Kowalski et al. 1996; Masson 1997; Ringle et al. 1990; Robles 1981, 1990; Robles and Andrews 1986]。特にチチェン・イツァーでは、今述べた伝統的な編年を支持するような考古学資料は存在しないことが明らかになりつつある [Chung 1993; Cobos 1994, 1997; Lincoln 1986; cf. Wren and Schmidt 1990]。それでは一体、古典期から後古典期にかけての北部低地においていかなる歴史過程が存在したのだ

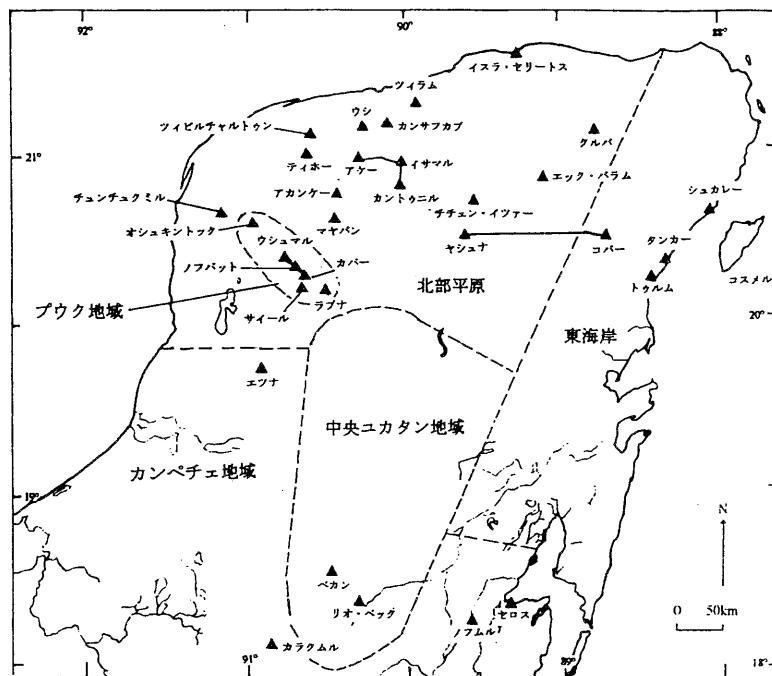


図1 北部マヤ低地

DATES AD	伝統的編年	Smith [1971] の土器編年	PARTIAL OVERLAP MODEL	TOTAL OVERLAP MODEL
1500		CHIKINCHEL	CHIKINCHEL	CHIKINCHEL
1400	後古典期後期	TASES	TASES	TASES
1300		HOCABA	HOCABA	
1200				HOCABA
1100	後古典期前期	SOTUTA	SOTUTA	?
1000				
900	古典期終末期	CEHPECH	CEHPECH	CEHPECH
800				SOTUTA
700	古典期後期	MOTUL		
600				
500	古典期前期	COCHUAH		
400				
300				

表1 北部低地における古典期・後古典期の編年 [Lincoln 1986; Smith 1971 から作成]

ろうか。本研究ノートの目的は、チチェン・イツァーの空間構造を分析することを通して、北部低地における古典期から後古典期への移行のプロセスに関する仮説を提示することにある。その際、社会のイデオロギー的側面に焦点を当てて考察を加える。さらに、マヤ史における古典期を新たに捉えなおす契機としたい。

以下の構成は、まずチチェン・イツァーの編年を現在まで提出されているデータならびにその解釈をもとに再検討する。次に、筆者によるチチェン・イツァーの空間構造の分析を紹介する。そして、それらの議論を合わせて、北部低地における古典期から後古典期への移行に関する仮説を提示する。

2. チチェン・イツァーの編年の再検討

Tozzer [1957] の枠組みに依拠した、「ユカテコ・マヤ」（マヤ期）から「トルテカ・マヤ」（トルテカ期）へ漸次的に発展するという伝統的な歴史の再構成は、もはや全面的に否定されている。それに代わって、現在では大きく二つの立場が採られている。一つは、チチェン・イツァーにおける「マヤ期」と「トルテカ期」は部分的に重なっているとする「部分的オーバーラップ・モデルpartial overlap model」[Wren and Schmidt 1991]で、もう一つが、チチェン・イツァーは全面的に古典期のセンターであり、「マヤ期／トルテカ期」の区分は成り立たないとする「全体的オーバーラップ・モデルtotal overlap model」[Ball 1979; Lincoln 1986; Cobos 1994, 1997; Cohodas 1978]である（表1）。以下では土器、碑文、C14年代、黒曜石に関するデータを整理し、チチェン・イツァーの編年を再検討する。

2-1. 土器による編年

まず土器については、Smithの型式分類 [Smith 1971] によってケフペッチ土器複合=古典期終末期（西暦800-1000）、ソトゥータ土器複合=後古典期前期（西暦1000-1200）という土器編年が確立された。それぞれの土器複合には、在地で生産された土器グループ（無スリップ土器、スレート土器、赤色土器）と、交易によって他地域からもたらされた土器グループ（ファイン・オレンジ土器、プランベート土器〔ソトゥータのみ〕）が含まれる。

このスマスの分類は長い間、そして現在でも多くの研究者に使用されているが、彼のデータを再検証したLincoln [1986] によると、ケフペッチとソトゥータの相違は地域差ならびに交易網の相違であって、西暦800-1000年にかけてケフペッチ土器複合はプウク地域において、ソトゥータ土器複合はチチェン・イツァーにおいて存在したということである。特に、ケフペッチからソトゥータへの連続をはっきりと支持する層位、C14、碑文のデータは、コバー、チチェン・イツァー、ウシュマルには存在しない [Lincoln 1986: 165] とともに、チチェン・イツァーにおいてケフペッチの純粋な層が見つかっていない [Lincoln 1986: 168] ことが、この結論を導いている。

具体的に彼が依拠しているデータは、ファインオレンジ土器グループとスレート土器グループである。ファインオレンジ土器に関しては、ソトゥータに属するシルホ・ファインオレンジとケフペッチに属するバルカンカン・ファインオレンジ、アルタール・ファインオレンジが共伴関係にある例がBrainerdとSmithのデータの中に存在する [Lincoln 1986: 168-169] だけでなく、他の遺跡（ベカン、アルタール・デ・サクリフィシオス、北海岸、エル・メコ、コバー、ウシュマル）からも報告されている [Lincoln 1986: 170-172]。スレート土器に関しても、チチェン・スレート土器とプウ

ク・スレート土器の共伴関係がいくつも報告されている [Andrews IV 1970; Robles 1981, 1990]。

これらのデータが正しいとすれば、ケフペッチ=古典期（マヤ期）、ソトゥータ=後古典期（トルテカ期）という図式は成り立たず、従来のようにチチェン・イツァーを土器から時期区分するのは難しくなる。ただし、プランベート土器に関しては西暦900年以降にユカタンに登場するという指標は有効なようである [Cobos 1994; Kowalski et al. 1996; Neff and Bishop 1988]。

2-2. 建築様式による編年

以上の土器編年の再検討を受けて、建築様式による編年、つまり「プウク様式」と「トルテカ様式」を時期差とするのは困難となっている。特に今まで古典期の指標とされてきた「プウク様式」はチチェン・イツァー全体に分布しており、これを古典期の指標としてしまうとチチェン・イツァーは古典期のセンターということになってしまふ。「マヤ期」の彫刻を伴う建造物が「トルテカ期」の彫刻を伴う建造物の下に埋まっている例はなく、また、例えば「プウク様式」（すなわち「マヤ期」）に含まれる鼻の長い神格の石彫が「トルテカ様式」の典型とされる戦士の神殿やオサリオ（高僧の墓）に見られるように、「プウク様式」と「トルテカ様式」の彫刻は混合しているため、それらを層位的な連続として区別するのは困難である。逆に「トルテカ様式」の球技場が層位的に「マヤ様式」の建造物よりも前に建てられている例が赤の家、尼僧院から報告されている [Bolles 1977; Cohodas 1978: 98-99]。Lincoln [1986] は機能分化した可能性を示唆している。

2-3. 碑文資料による編年

チチェン・イツァーには長期暦の年代が1つと(イニシャルシリーズの神殿：10. 2. 9. 1. 9 9 Muluc 7 Zac=西暦878年)、カレンダー・ラウンド、トゥン=アハウの年代が多数報告されており、ほぼ西暦850年から900年の間にに入る。後者2つの暦は、長期暦とは異なり絶対年代が伴わない暦の記述方法である。したがって、どのように解釈するかで見解も分かれることになり、傍証としてのみ有効であると言える。しかしながら、神聖文字の脇柱の神殿、オサリオを除いてほぼ意見は一致していると見てよいだろう。

神聖文字の脇柱の神殿 (Str. 6E3) については、Kelleyが10.2.15.2.13（西暦884年）としたのに対し、Krochockは10.0.2.7.13 9 Ben 1 Zac（西暦832年）と解釈している [Cobos 1997]。オサリオ頂上の柱4に刻まれた暦はThompson、Kelleyによって10.8.10.11.0 2 Ahau 18 Mol（西暦998年）として解釈されてきたが、近年Schele and Freidel [1990: 500] は10.0.12.8.0（西暦842年）の日付を与えている。一方Schmidt、Cobosらは10. 3. 5. 3. 0 2 Ahau 18 Mol（西暦894年）の年代を好んで使用している [Cobos 1994]。

これらの他、Wren and Schmidt [1991] は大球技場から出土したと思われる直径99 cm、高さ52 cmの半球形の石 (Great Ball Court Stone) に刻まれたカレンダー・ラウンドの日付が西暦864年 (10. 1. 15. 3. 6 11 Cimi 14 Pax) と解釈できることを示している。この石はマヤ文字碑文と「トルテカ・マヤ」に特徴的な図像が組み合わされて描かれており、特にこの図像が大球技場のベンチ・レリーフならびにジャガーの下層神殿のレリーフに酷似していることから、これらの建造物と同時期であるとしている [Wren and Schmidt 1991: 205-206]。また、彼らはこの解釈をもとに、メキシコからの侵入は考えられていたよりも早い時期に起こり、独特の多民族政体が形成されたと説いている [Wren and Schmidt 1991: 212]。

2－4. C14年代

チチェンからは6つのC14年代が報告されている。それぞれ、西暦600±70（イグレシア）、610±60（赤の家）、780±70（イグレシア）、810±200（尼僧院）、790±70（カスティージョ）、810±100（カスティージョ、再測定）である [Andrews IV and Andrews V 1980]。しかしながら、サンプル数があまりにも少ないため確実なデータとは言えず、これらの年代をもとに編年を構築する研究者はほとんどいない。

一方、チチェンの商業港であったと考えられているイスラ・セリートスの発掘調査から重要な示唆に富む報告がなされている [Andrews et al. 1988; Gallareta et al. 1989]。この遺跡ではケフペッチ土器複合がソトゥータ土器複合に取って代わられることが層位的に確認されており、ソトゥータ土器の時期を示す3つのC14年代が得られている。それぞれ、960年、1027年、1039年の年代が与えられており、このデータからこの遺跡を調査した1人であるCobos [1997] は、チチェンの勃興は西暦900年以降であることを示唆している。

2－5. 黒曜石の分布パターン

チチェンから採集されている合計1459片の黒曜石の内、530片がミショアカン州のウカレオ・シナペクアロ地方、264片がイダルゴ州のパチューカ、143片がエ布拉州のパレドン、メキシコ州オトゥンバから1片、グアテマラ、イシュテペケから220片、エル・チャヤルから132片が搬入されていたことが判明している [Healan 1993, 1997; Moholy-Nagy and Ladd 1992; Cobos 1997]。つまり、チチェンの黒曜石の大部分はメキシコ西部のウカレオ・シナペクアロから搬入されており、それにパチューカ、イシュテペケが続いていることになる。

これらの黒曜石の層位などのコンテクストは明らかでなく、ここから直接時期別のパターンを抽出することはできないが、イスラ・セリートスにおける黒曜石の時期別パターンと中央メキシコにおけるパターンが類似していることから、チチェンも同じであったと想定できる。イスラ・セリートスでは、西暦750-900年の間は、ウカレオが主要であり、西暦900-1050年の間は、ウカレオとパチューカがほぼ同じ比率になる [Cobos 1994]。一方中央メキシコでは、ウカレオの黒曜石を主に搬入していたのは、メキシコ州アツカボサルコ、モレロス州ショチカルコ、イダルゴ州トゥーラのコラル、コラル末期（西暦800-950年）であり、これらのセンターの時間幅をまとめると、およそ西暦700/750年から900/1000年となる。まとめると、ウカレオを中心とする黒曜石の交易網が8世紀頃から11世紀頃まで依然として続くが、途中で（おそらく900年前後）でパチューカ産黒曜石もこの交易網に参加したことになる。

2－6. 小括

以上のデータからも明らかなように、これらのデータからは以前の研究者が想定したような大きな変化は読み取ることができない。したがって、考古学資料をもとにチチェン・イツァーの編年を組み立てている研究者の多くが、チチェン・イツァーは全く古典期のセンターであったとするトータル・オーバーラップ・モデルを主張するのも納得がいくだろう [Cobos 1994, 1997; Lincoln 1986; cf. Cohodas 1978]。ここで最低限指摘できるのは、プランベート土器や黒曜石の分析から、ある時期において新しい交易網が加わったということだけである。

3. チェン・イツァーにおける空間構造の変化¹⁾

3-1. セトルメント・パターンと「空間構造」

チエン・イツァーの空間構造の分析に入る前に、この「空間構造」(spatial structure)という概念について少し触れておきたい。

本研究ノートで具体的に分析対象としているのは建築物ならびに建築グループの物理的な位置関係であるが、このような位置関係を対象としたものは従来セトルメント・パターン研究あるいはセトルメント考古学(settlement archaeology)と総称される分野に含められてきた。セトルメント・パターン研究はマヤ地域では1960年代から着手され、特にコミュニティの形態すなわち社会組織の研究と相まって進んできており、主に定量的データを多用したセトルメントのマクロ・パターン（センター間の序列）、生業の適応、人口推定、発展過程のモデルなどが主流となっている [e.g., Ashmore ed. 1981]。

80年代になると、詳細なデータの蓄積と碑文学、図像学の進展に伴ってティカルやコパン、キリグアなど集中的に発掘の行われた遺跡のデータをもとに、セトルメント・パターンとコスモロジー、イデオロギー、政治的シンボリズムの関係が論じられるようになった [Ashmore 1989, 1991; Coggins 1980; Schele and Miller 1986, etc]。なかでも、近年Ashmore [1989, 1991] によって、古典期・南部低地のいくつかのセンターにおいてサイト・プランの「原型、原則、铸型」が共通していることが指摘されている。Ashmoreはいくつかの特徴を挙げているが、その中でも主な特徴としては、センターの北の部分と南の部分が補完的に成り立っており、北側に祭祀空間、南側にエリートの居住空間があり、しばしばそれらの間に球技場があるというものである。

本研究ノートで使う「空間構造」とはAshmoreの「原則、原型、铸型」にほぼ相当する。ただし、Ashmoreがセトルメント・パターンの意味を強調したのに対し、本研究ノートでは、その構造的な原理に強調点を置くため「空間構造」という用語を使うことにした。それでは、以下チエン・イツァーの空間構造を分析する。

3-2. チエン・イツァーにおける建築ユニット

空間構造とその変化を追うためには、まず各建造物間の時間的前後関係を同定することが肝要となる。本節ではチエン・イツァーの主要建造物をいくつかの同時期に建造された建築グループ、すなわち建築ユニットに分けてみたい。

チエン・イツァーは、大規模建造物が林立している南北800m、東西550mの中心地（図2）と、中心地から離れているがサクベで繋がれた二次センターからなる [Schmidt 1981]。チエン・イツァーの中心グループは城壁に開まれたGran Nivelaciónと呼ばれる大基壇からなり、基壇上には高さ24mのカスティージョと呼ばれる神殿ピラミッドを中心に、戦士の神殿、大球技場、金星のプラットフォームなどが周りに配置されている。そして、カスティージョから金星のプラットフォームを通った延長線上に、生贊のセノーテと呼ばれる直径50-60.50mの自然の井戸があり、中心グループとサクベで繋がれている。中心グループからはサクベが放射状に延びており、その南部には、オサリオ・グループ、カラコル、尼僧院、さらに南に行くとリンテルの神殿群がある（図4）。

このように、チエン・イツァー自体が非常に広い範囲に渡って存在するとともに、この地域（北部平原）における表土が浅いこともあり、層位のみから建築物同士の時期関係を決定するのは非常に困難となっている。土器による編年も1つのタイプが約200年という時間幅を持っているた

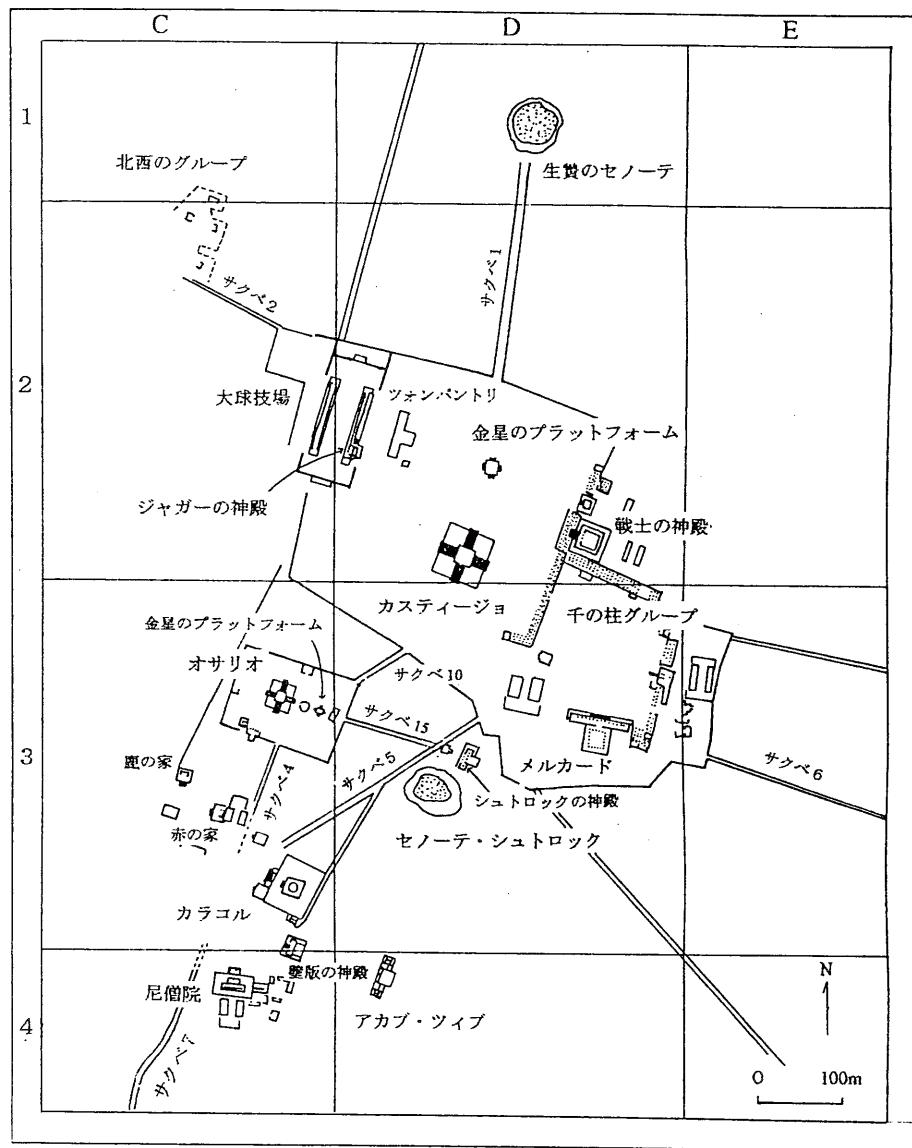


図2 チェン・イツァー中心部 [Ruppert 1952: fig. 350 から作成]

め、ほとんど役に立たない。また、前章で概観したように、建築様式やC14年代もチチェン・イツァーでは現在のところ有用であるとは言えない。碑文の年代も一部の建造物にしか利用できない。

それではいかにしてある複数の建築物が同時代に建造され機能していたと同定できるのだろうか。今までのところ、同じ広場に面していたり、サクベで繋がっているということが同時代に使用されていたという指標となっている [e.g., Lincoln 1986: 184-186]。しかしながら、それはあくまで同時代に機能していた時期があったという証拠にはなっても、同時代に建造されたという証拠にはならない。ここで筆者は、あるパターンを見出すことで、そのパターンに含まれる建造物群が一度に建造された有力な証拠になるのではないかと考えている。あくまでこれは仮定であるが、この仮定にしたがってチチェン・イツァーの建築ユニットを同定してみたい。

まず、興味深いデータが1993-94年のチチェン・イツァー・プロジェクトによって明らかになっている [Fernández 1996; Schmidt 1994]。このプロジェクトでは中心グループの南に位置するオサリオ・グループが集中発掘された。オサリオ・グループはカスティージョに酷似したオサリオ（あるいは高僧の墓）と呼ばれる神殿ピラミッド、中心グループのものと同名の金星のプラットフォーム、円形のプラットフォームなどが位置する建築グループであるが、このオサリオ・グループとその東に位置するセノーテ・シュトロックを繋ぐサクベが発見されたのである。この発見によって新たな事実が明らかになった。つまり、「神殿ピラミッド→金星のプラットフォーム→サクベ→セノーテ」というパターンが中心グループとオサリオ・グループで繰り返されているのである（図2）。ただし、オサリオ・グループでは東西が軸、中心グループでは南北が軸になっている。このデータから、セノーテ・シュトロックを含むオサリオ・グループ、生贊のセノーテを含む中心グループはそれぞれ同時代に建造された建築ユニットであると想定できる。もちろん、それぞれのグループは同じ広場に面しており、かつ城壁によって囲まれているため同時代であることはすでに示唆されてきたが、セノーテ・シュトロックとオサリオ・グループを繋ぐサクベの発見によって、より有力な仮説となったと言える。

さて、チチェン・イツァーにはこれらの他にも主要な建築グループが存在する。それらはオサリオ・グループのさらに南に位置するが、ここで明らかになったパターンはそれらの建築グループには適用できない。また、これらのグループはチチェン・イツァーの中でも数少ない碑文を持った建築物群である。ここでは碑文のデータを使って建造物群の時期関係を同定する。

今まで解読（解釈）されている碑文のほとんどはカクパカル（Kakupakal）王に関するものである [Kelley 1968; Krochok 1991; cf. Davoust 1980]。カクパカルは儀礼の執行者として合計14回言及されており [Krochok 1991]、このカクパカルに関する碑文の年代は869-881年の間にに入る。したがって、これらの碑文を持つ建造物はカクパカルと同時代、すなわち1つの建築ユニットとして想定できる。具体的には、イニシャル・シリーズの神殿、尼僧院、4つのリンテルの神殿などが含まれる。

3-3. チチェン・イツァーにおける空間構造の変化

以上、チチェン・イツァーの主要建築グループを大きく3つのユニットに分けたが、これらの時期的前後関係はどのようにになっているのであろうか。まず最初に中心グループとオサリオ・グループの前後関係について見ていく。

両者の時期決定に関しては、土器は両者ともソトゥータ土器複合で建築様式もかなり類似しており（「トルテカ様式」）、さらにサクベで繋がれていることからほぼ同時代というのが今までの見解であった [e.g., Tozzer 1957]。しかしながら、オサリオの碑文の年代と中心グループの大球技場

から出土した円筒形祭壇の碑文の年代の解釈をめぐって議論が分かれてもいる [Wren and Schmidt 1991; Cobos 1997]。また、オサリオにある洞窟が起源神話のものであるとしてオサリオを最初に位置づける研究者もいる [Schele and Freidel 1991: 500]。ここでは、サクベに注目することで一つの仮説を提出する。

一般にサクベはセンター内の建築グループ間を繋ぐものとセンター間を繋ぐものがある。そして、先スペイン期メソアメリカでは運搬用家畜動物が存在しなかったことから、サクベは純粹に移動のための道路というよりは様々な意味を担わされたものだったと考えられている。例えば、センター間を繋ぐサクベはそれらセンター間の従属関係を示しているものとして解釈されている [Kurjack and Andrews V 1976; Maldonado 1979, 1995]。センター内のサクベもセンターの統一性を強調するなど象徴的意味があったとする見解もある [Ashmore 1989, 1991]。

このように考えられているサクベであるが、ここで注目したいのは、オサリオ・グループとセノーテ・シュトロックを繋ぐサクベ（サクベ15）が、中心グループとカラコルを繋ぐサクベ（サクベ5）によって分断されている事実である（図2）。これらのサクベの発掘報告によると [Fernández 1996]、サクベ15は1時期、サクベ5は4時期の建築フェイズがあり、サクベ5が最初に建設されたか、あるいはサクベ15とサクベ5の1時期目が同時代とされている。しかしながら、この解釈にはいくつか疑問が残る。発掘資料によると、サクベ5が南北に間断なく引かれておりそこにサクベ15が東西からぶつかっているが、この両サクベの交差地点におけるサクベ15はサクベ5の後の時期の建設ならびに現代における石材採集によって破壊されており、この解釈を支持する確実な証拠があるわけではない [Fernández, personal communication 1998]。反対に、筆者はサクベ15が最初に引かれており、サクベ5の建設によってその一部が破壊されたと考えている。それは後の時代にサクベ5のみが拡張され道の両側に高さ約1mに及ぶ壁が建設された [Fernández 1996: 52] ことからも示唆される。さらに、サクベ15はパターン化された建築ユニットの重要な構成要素であり、それらの建造物と結び付いた儀礼複合の存在を考え合わせると、サクベ15が最初から分断されていたとは考えにくいのである。そして、サクベ5の建設が中心グループの建設と同時代と仮定すれば、中心グループよりも先にオサリオ・グループが建造されることになる。この仮説を支持する他の証拠としては、中心グループの建造物の多くが、その前にあった建造物を埋めて建てられている、つまり2時期の建築フェイズがあるのに対し、オサリオ・グループの建造物は一度建てられたきりであり、かつ、オサリオ・グループにある金星のプラットフォームの漆喰製壁面装飾の分析から、長期間使用されていることが示唆されていることが挙げられる [Fernández 1996: 40-44]。古典期マヤの多くのセンターでは、多くの場合、王が代替わりするときに建造物を更新するが、チチェン・イツァーの新しい王は、オサリオ・グループを埋めて新たな建造物を建てる代わりに、中心グループを建設したとすれば納得がいくのである。また、図像研究からもオサリオ頂上部の柱に描かれた図像が中心グループの戦士の神殿、ならびに戦士の神殿の前の時期の建造物（チャックモールの神殿）の柱に描かれた図像よりも古いことが示唆されている [Schele and Freidel 1991: 356]。

次に南の建造物群であるが、上の仮説にしたがってチチェン・イツァーの平面図から中心グループから延びるサクベを消去していくと興味深い事実が浮かび上がる。それは、中心グループからサクベが放射状に延びているのに対し、中心グループ建設前のオサリオ・グループからは、セノーテ・シュトロックと繋がるサクベを除くと南側にサクベが一本延びているだけであるという事実である（図3）。これは、オサリオ・グループに入る人々に対して南からのアクセスを強制するものである。そして、このサクベは、途中に球技場（赤の家裏の球技場ならびに尼僧院裏の球技場）を

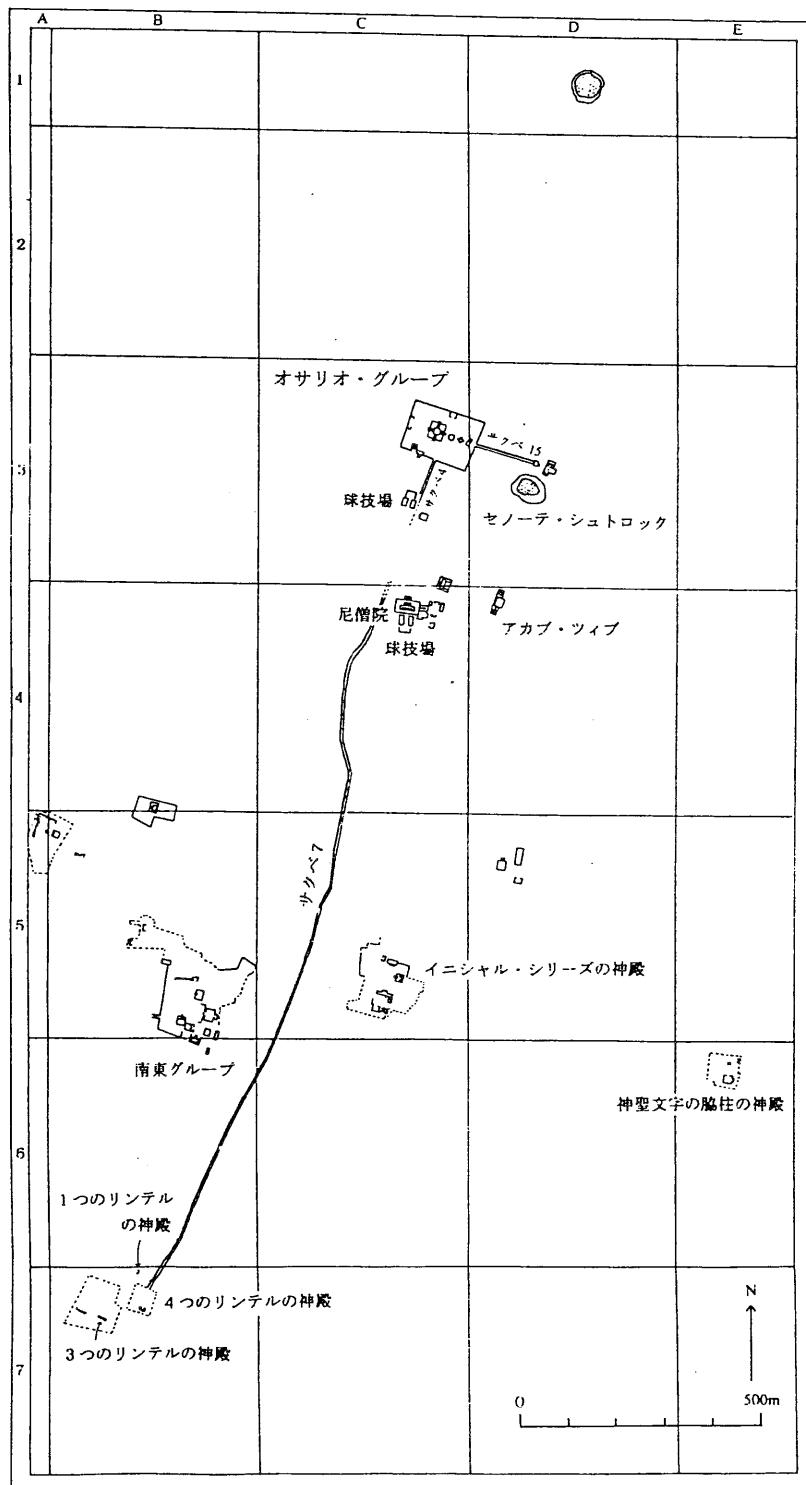


図3 古典期終末期におけるチチェン・イツァーの仮説的復元図
[Fernández 1996: fig. 1; Ruppert 1952: fig. 350; Schmidt 1994 から作成]

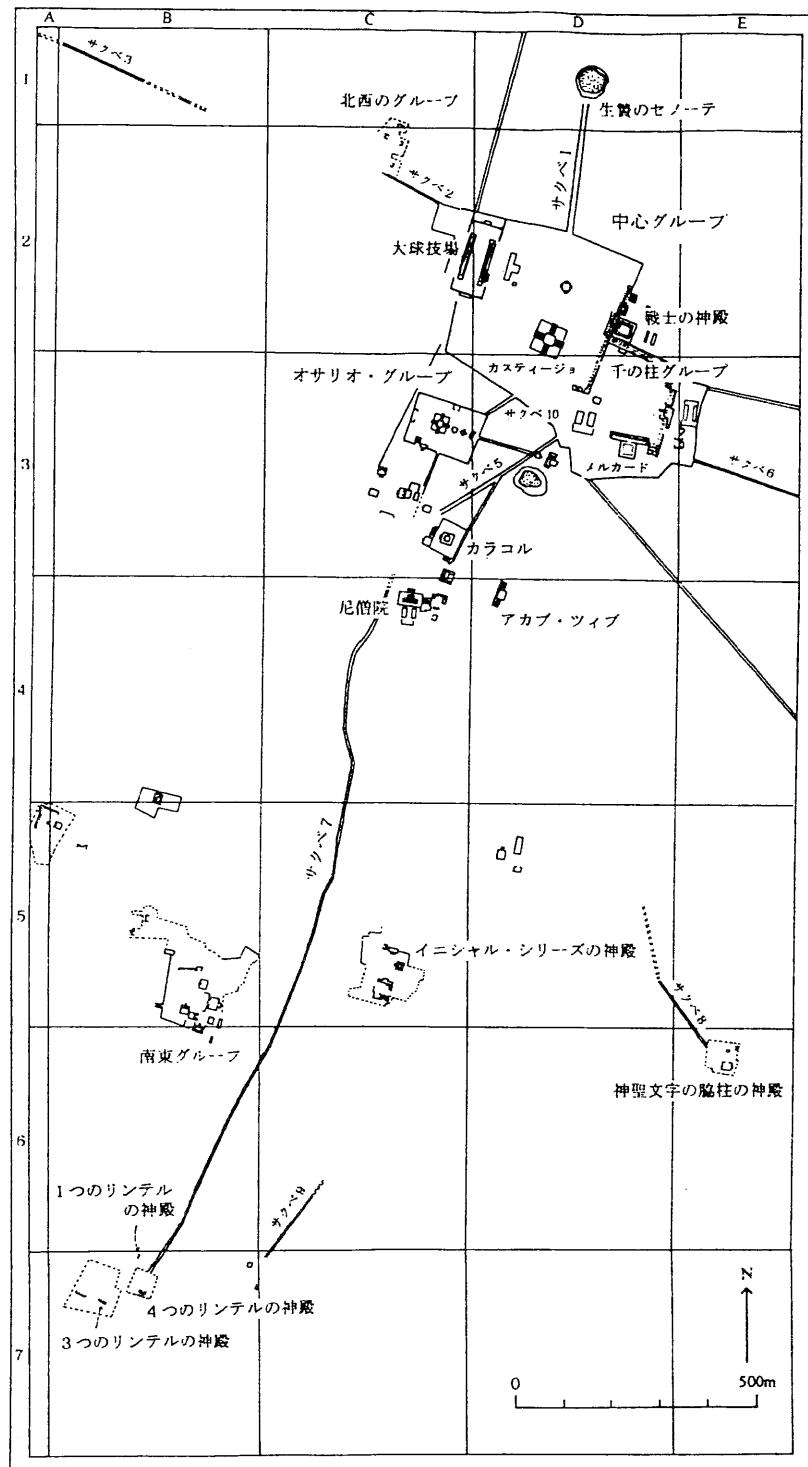


図4 後古典期前期におけるチチェン・イツァーの仮説的復元図
[Fernández 1996: fig. 1; Ruppert 1952: fig. 350; Schmidt 1994 から作成]

配しながら、南の建造物群のほうへ延びていくのである。

ここで前述のAshmoreの理論を援用することで一つの仮説が提示できる。つまり、北の祭祀空間に対応するのがオサリオ・グループ、南の居住空間に対応するのが南の建造物群であると考えられる。そしてその間に球技場が存在するのである（図3）。特に、オサリオ・グループ内には王やエリート層の居住区と考えられる建造物がないため、南へ延びるサクベの延長上に彼らが居住する建造物群があったと考えても矛盾しない。つまり、オサリオ・グループと南の建造物群は相互補完的に成り立っており、同時期に建造され使用されたと考えられるのである。

この北対南という空間構造は中心グループの建設によって変化を被る。まず、北と南を媒介していた球技場は存在し続けるが、中心グループ内に新たに、しかもメソアメリカで最大の球技場（大球技場）が建設される。王の居住区に関してはまだ定説はないが、Freidel [1981: 323] が示唆している通り、中心グループの東側に位置するメルカードと呼ばれる建造物が王宮ではないかと考えている。この建造物はパティオ＝ガレリア（patio=galería）と呼ばれる建築様式でつくられており、当初Ruppertによって市場として機能していたのではないかと示唆されていたが、彼自身による発掘調査から炉跡やメタテが見つかっているため [Freidel 1981: 323] 、住居として機能していた可能性が高い。もし、メルカードが王宮であれば、中心グループの建設によって北対南という空間構造を構成していた諸要素がすべて1つの場所、中心グループに集められたことになる。そして、この城壁によって囲まれた中心グループから様々な建築グループへサクベが引かれたのである。ここでチエン・イツァーは、北対南という空間構造に対して、中心対周辺という空間構造をとることになる（図4）。

以上の議論を纏めると、空間構造の分析からチエン・イツァーは大きく二つの時期に分けることができ、それらの両時間では、オサリオ・グループと中心グループの配置に見られるような驚くほどの継続性とともに、北対南という構造的原理に対する中心対周辺という放射状の原理という構造上の相違点が明らかになったわけである。

4. 考察

4-1. 空間構造と王権イデオロギー

さて、この空間構造の変化は一体何を意味するのだろうか。一般に古典期・南部低地では、こういったセンターの建造物や彫刻は王権を正当化する装置として捉えられており [Ashmore 1989, 1991; Schele and Miller 1986] 、そこで儀礼を行うことで王権イデオロギーが強化され、それがセンターの主な権力基盤になっていたという見解がある [Demarest 1992] 。古典期マヤのすべてのセンターが一様であったとは考えられないが、プウク地域の研究、特にウシュマルの建造物の図像学的研究からも、それらの建造物がある特定の観念（イデオロギー）を表現していたことが示唆されている [Dunning and Kowalski 1994; Kowalski 1987] 。チエン・イツァーについては、エスノヒストリー資料が絡んでいることもあり議論は錯綜しているが、複数の建造物が特定の方角に向けて建てられたり、前述したパターン化された建造物の配置の存在から、ある特定の支配イデオロギー（王権イデオロギー）が空間構造を決定付けていたと想定できる。そうであれば、チエン・イツァーにおける空間構造の変化は王権イデオロギーの変化としてそのまま読み替えることができる。つまり、この変化からチエン・イツァーが新たに再編成されたことが示唆されるのである。それは、中心グループがオサリオ・グループを放射状に延びるサクベに組み込むことで、以前の「中心」を

「周辺」に変換したことからも読み取れる。つまり、ここで新たな序列化が行われたと考えられる。また、大球技場のジャガーの神殿内部の壁画から、中心グループの建設前後に北部低地（あるいは南部低地も含む）において大きな混乱があったことが示唆されている [Miller 1977, 1987]。そうだとすれば、この変化はチ첸・イツァー内部だけでなく、チ첸・イツァーを取り巻く周辺の社会にも影響を及ぼした事件だと考えられるのではないだろうか。

4－2. チ첸・イツァーと北部低地の編年

以上の議論から明らかになったチ첸・イツァーの変化はどれくらいの時期に起こり、また北部低地の他の諸社会にどのような影響を及ぼしたのだろうか。このことを考えるヒントがチ첸・イツァーの西に位置する大センター・ウシュマルに存在する。

筆者は以前、チ첸・イツァーの他にウシュマルの空間構造についても一つの仮説を提出した [村上1998]。碑文研究から、ウシュマルの勃興は「チャック王」（Lord Chac）と呼ばれる王と密接な関係があったことが示唆されており [Dunning and Kowalski 1994; Kowalski 1985, 1986, 1987]、それを前提に、ウシュマルの建造物をチャック王前と以後に分けた。そして、ウシュマルではチャック王前と以後において、北対南という空間構造が繰り返されることが明らかになった。さらに、チャック王前においては碑文も球技場も存在しなかったが、チャック王の時期になってから碑文が刻まれ、さらに北と南の間に球技場が建設された。

このウシュマルの勃興は西暦800年代後半から900年代前半にかけてとされているが、この年代はちょうどオサリオ期のチ첸・イツァー（800年代後半）に相当する。そしてこの時代の一致は碑文資料からも支持される。チ첸・イツァーのStr. 6E1の浮き彫りを施された柱には二人の人物が描かれているが、片方の人物にはカクパカルを表す表意文字が付随しており [Proskouriakoff 1970: 462-464]、さらにもう一方の人物は、チャック王として考えられているウシュマル石碑14の人物と酷似していることから彼自身ではないかと示唆されている [Kowalski 1985: 57; 1987]。また、ウシュマルのチャンチメス・グループの碑文にはカクパカルの表意文字が刻まれている [Kowalski 1985: 57]。このチャンチメスの建造物は様式的にはプウク後期（西暦800-900年）に属するとされているため、同一人物である可能性が高い [Kowalski 1985: 57]。

以上の議論が正しいとすれば、チャック王以降のウシュマルとオサリオ期のチ첸・イツァーにおける北対南という空間構造は時期的に重なっていることになる。そして、ウシュマルはその後衰退していくと考えられているが [Dunning and Kowalski 1994; Kowalski et al. 1996]、そうだとすれば、ウシュマルとチ첸・イツァーに共有されていた北対南という構造は新チ첸・イツァーの勃興によって否定されたと考えられるのである。

この事件（チ첸の中心グループの建設）が従来言われていたような異民族の侵入によるのかどうかはにわかに判断できないが、空間構造を見ると、チ첸・イツァーの中心グループの建設をもって、確かに古典期の諸センターとは違うものがつくり上げられたと言える。また、放射状ということであれば、例えば北部低地・古典期の他の遺跡（ツィビルチャルトゥン、コバー、エックバラムなど）もそうであるが、それらのセンターでは中心と周辺がそれぞれ1対1の関係で結ばれているのに対し、チ첸では周辺同士もサクベで結ばれていることが明らかになりつつある [Cobos, personal communication 1997]。やはり、古典期のセンターとは異なるのである。この意味で、チ첸における変化が従来の古典期マヤから後古典期への移行を表していると捉えられるのである。

この移行はオサリオ期の南の建造物群の碑文の年代が800年代後半であることから、900年前後に起こったと考えられる。そして、おそらく黒曜石の分布パターン、土器の分析から明らかになった交易網の変化も同じ時期に起こったのではないだろうか。その相関関係については不明であるが、パチューカの黒曜石にせよプランベート土器にせよ、トゥーラと密接に関係していることは興味深い点である。

以上の仮説が正しいとすれば、古典期と後古典期の相違は、民族や建築様式の違いというよりは、王権イデオロギーの変化としてより明確に捉えられることになる。また、チチェン・イツァーの変化が遺物に反映しにくいものも説明がつく。つまり、オサリオ期の建造物の多くはそのまま再利用されたため、後の時期の遺物が混ざり、層位の違いとしては現れないものである。とはいえ、さらなる検証が必要なのは言うまでもない。

5. 結論

70年代以前の研究者がチチェン・イツァーを「ユカテコ・マヤ」と「トルテカ・マヤ」に分け、前者を古典期、後者を後古典期とした区分は現在多くの研究者によって批判されており、その根拠を考えると確かにそういった区分は間違いであった。しかし、今、新たな視点からチチェン・イツァーの編年を再考してみると、70年代以前と同じような図式が浮かび上がってきた。その内実は全く異なるが、チチェン・イツァーにおいて起こった変化が古典期から後古典期への移行を示している可能性が示されたのである。

以上において古典期から後古典期への移行について考察することは、単に時期を区分するという問題ではなく、マヤ史において古典期とはいって何だったのか捉えなおすことでもあった。ここでAshmoreやFreidel、Scheleらが行った古典期・南部低地の王権イデオロギーの研究と本研究を重ね合わせると、うっすらと浮かび上がってくるのは、古典期において共有された王権の基層イデオロギーとでも呼べるもののが存在した可能性である。この点に関しては、碑文研究からアハウの制度が共有されていたことが示唆されている [Freidel 1992; Schele and Freidel 1990] とともに、チチェン・イツァーにも紋章文字が存在したことが報告されており [Kelley 1968, 1976: 218-219; Kowalski 1986; Mathews 1991: fig.2.2; cf. Stuart and Houston 1994: 5] 、古典期・南部低地とチチェン・イツァーの継続性が強調されている。ただし、これらの研究が依拠している碑文資料は本研究ノートで言うオサリオ期の建造物に付随するものである。そして、中心グループの建設に伴って碑文はほとんど使用されなくなる。つまり、古典期・南部低地と継続しているのはオサリオ期のチチェン・イツァーなのである。そして、この共有されたイデオロギーからの脱却が後古典期をしるし付けていると考えられるのである。だからこそ、チチェン・イツァーにおける空間構造の変化は、古典期から後古典期への移行として位置づけられる必要があり、そうすることに意味があるのである。

【謝辞】

本研究ノートは1997年度東京大学大学院総合文化研究科に提出した修士論文 [村上 1998] の一部を大幅に加筆・修正したものに新たな知見を加えたものである。修士論文の執筆に当たっては、メキシコ国立人類学歴史学研究所ユカタン地方センター所長のAlfredo Barrera Rubio氏、ユカタン自治大学／米国テュレーン大学のRafael Cobos先生、ユカタン自治大学のLilia Fernández氏、埼玉大学の加藤泰建先生、民族学振興会の中村誠一氏、山形大学の坂井正人先生、埼玉県上福岡市教育委員会の柳沢健司氏、埼玉大学大学院の福田麻弥氏、そして修論執筆当時の指導教官であった大貫良夫先

生に大変お世話になりました。この場を借りて深く感謝申し上げます。また、本稿の執筆に当たっては日本学術振興会特別研究員に支給される文部省科学研究費補助金（特別研究員奨励費）の一部を使用した。

註

- 1) チェン・イツァーにおける空間構造の分析に当たっては、最初に1935年に出版された KilmartinとO'Neillの地図 [Ruppert 1952: fig.350] 、ならびに1993-94年チチェン・イツァー・プロジェクトによって作成されたオサリオ・グループ周辺の地図 [Fernández 1996: fig.1] を使用した。

参考文献

- Andrews, Anthony P., Tomas Gallareta N., Fernando Robles C., Rafael Cobos P., and Pura Cervera R.
- 1988 Isla Cerritos: An Itza Trading Port of the North Coast of Yucatan, Mexico. *National Geographic Research* 4 (2): 196-207.
- Andrews, E. Wyllis, IV
- 1965 Archaeology and Prehistory in the Northern Maya Lowlands: an Introduction. In *Handbook of Middle American Indians, Vol. 2: Archaeology of Southern Mesoamerica*, edited by Robert Wauchope (gral.) and Gordon R. Willey(vol.), pp.288-330. University of Texas Press, Austin.
- 1970 *Balancanche: Throne of the Tiger Priest*. Middle American Research Institute, Publication 32. Tulane University, New Orleans.
- Andrews, E. Wyllis, IV and E. Wyllis Andrews V
- 1980 *Excavations at Dzibilchaltun, Yucatan, Mexico*. Middle American Research Institute, Publication 48. Tulane University, New Orleans.
- Ashmore, Wendy
- 1989 Construction and Cosmology: Politics and Ideology in Lowland Maya Settlement Patterns. In *Word and Image in Maya Culture: Explorations in Language, Writing, and Representation*, edited by William F. Hanks and Don Rice, pp.272-286. University of Utah Press, Salt Lake City.
- 1991 Site-Planning Principles and Concepts of Directionality among the Ancient Maya. *Latin American Antiquity* 2 (3):199-226.
- Ashmore, Wendy, ed.
- 1981 *Lowland Maya Settlement Patterns*. University of New Mexico Press, Albuquerque.
- Ball, Joseph W.
- 1979 Ceramics, Culture History, and the Puuc Tradition: Some Alternative Possibilities. In *The Puuc: New Perspectives*, edited by L. Mills, pp.18-35. Scholarly Studies in the Liberal Arts, Pub. 1. Central College, Pella, Iowa.
- Barrera Vásquez, Alfredo and Silvia Rendón
- 1963 *El Libro de los Libros de Chilam Balam* (2a ed.). Fondo de Cultura Económica, México.

- Bey, George J., Craig A. Hanson, and William M. Ringle
- 1997 Classic to Postclassic at Ek Balam, Yucatan: Architectural and Ceramic Evidence for Defining the Transition. *Latin American Antiquity* 8 (2):237-254.
- Bolles, John S.
- 1977 *Las Monjas: A Major Pre-Mexican Architectural Complex at Chichen Itza*. University of Oklahoma Press, Norman.
- Brainerd, George W.
- 1958 *The Archaeological Ceramics of Yucatan*. University of California Anthropological Records 19. Berkeley, Los Angeles.
- Chase, Diane Z. and Arlen F. Chase
- 1982 Yucatec Influence in Terminal Classic Northern Belize. *American Antiquity* 47:596-614.
- Chung, Hea Joo
- 1993 *Análisis Tipológico y Petrográfico de la Cerámica Arqueológica de Chichén Itzá, Yucatán*. Tesis de Licenciatura en Arqueología, Escuela Nacional de Antropología e Historia, México, D.F.
- Cobos, Rafael
- 1994 Katun and Ahau: Dating the End of Chichen Itza. Paper presented in the Symposium: "Chronological Frameworks for Ancient Maya Development: New Evidence from Northeastern Yucatan". 93rd Annual Meeting of the American Anthropological Association, Atlanta.
- 1997 Chichén Itzá y el Clásico Terminal en las Tierras Bajas Mayas. Ponencia Presentada en el XI Simposio de Investigaciones Arqueológicas en Guatemala, Julio 21-25, Guatemala.
- Coggins, Clemency C.
- 1980 The Shape of Time: Some Political Implications of a Four-Part Figure. *American Antiquity* 45: 727- 739.
- Cohodas, Marvin
- 1978 Diverse Architectural Styles and the Ball Game Cult: the Late Middle Classic Period in Yucatan. In *Middle Classic Mesoamerica: A.D. 400-700*, edited by E. Pasztory, pp.86-107. Columbia University Press, New York.
- Davoust, Michel
- 1980 Les premiers chefs Mayas de Chichen Itza. *Mexicon* 2 (2):25-29.
- Demarest, Arthur A.
- 1992 Ideology in Ancient Maya Cultural Evolution: the Dynamics of Galactic Polities. In *Ideology and Pre-Columbian Civilizations*, edited by A.A. Demarest and G.W. Conrad, pp.135-157. School of American Research Press, Santa Fe.
- Dunning, Nicholas P. and Jeff K. Kowalski
- 1994 Lords of the Hills. *Ancient Mesoamerica* 5: 63-95.
- Fernández Souza, Lilia
- 1996 *Asociaciones Arquitectónicas en Chichén Itzá: La Plaza del Osario*. Tesis de Licenciatura en Ciencias Antropológicas. Universidad Autónoma de Yucatán, Mérida, México

Freidel, David

- 1981 Continuity and Disjunction: Late Postclassic Settlement Patterns in Northern Yucatan. In *Lowland Maya Settlement Patterns*, edited by W. Ashmore, pp.311-332. University of New Mexico Press, Albuquerque.
- 1992 Children of the First Father's Skull: Terminal Classic Warfare in the Northern Maya Lowlands and the Transformation of Kingship and Elite Hierarchies. In *Mesoamerican Elites: An Archaeological Assessment*, edited by D.Z. Chase and A.F. Chase, pp.99-117. University of Oklahoma Press, Norman.

Gallareta, Tomás, A. P. Andrews, F. Robles C., R. Cobos P., y P. Cervera R.

- 1989 Isla Cerritos: Un Puerto Maya Prehispánico de la Costa Norte de Yucatán, México. In *II Coloquio Internacional de Mayistas*, Tomo II, pp.311-332. Universidad Nacional Autónoma de México, México, D.F.

Healan, Dan M.

- 1993 Local Versus Non-local Obsidian Exchange at Tula and its Implications for Post-formative Mesoamerica. *World Archaeology* 24 (3):449-466.
- 1997 Prehispanic Quarrying in the Ucareo-Zinapecuaro Obsidian Source Area. *Ancient Mesoamerica* 8:77-100.

Kelley, David

- 1968 Kakupacal and the Itzas. *Estudios de Cultura Maya* 7: 255-268.
- 1976 *Deciphering the Maya Script*. University of Texas Press, Austin.

Kowalski, Jeff K.

- 1985 Lords of the Northern Maya: Dynastic History in the Inscription. *Expedition* 27(3): 50-60.
- 1986 Some comments on Uxmal inscriptions: a reference to a historical figure and a probable tun-ahau date. *Mexicon* 8 (5): 93-95.
- 1987 *The House of the Governor: A Maya Palace at Uxmal, Yucatan, Mexico*. University of Oklahoma Press, Norman.

Kowalski, Jeff K., Alfredo Barrera R., Heber Ojeda M. and José Huchím H.

- 1996 Archaeological Excavations of a Round Temple at Uxmal: Summary Discussion and Implications for Northern Maya Culture History. In *Palenque Round Table, 1993*, vol. X, edited by M. J. Macri and J. McHargue, pp.281-296. Pre-Columbian Art Research Institute, San Francisco.

Krochock, Ruth

- 1991 Dedication Ceremonies at Chichen Itza: the Glyptic Evidence. In *Sixth Palenque Round Table 1986*, edited by M. G. Robertson and V. Fields, pp.43-50. University of Oklahoma Press, Norman.

Kubler, George

- 1961 Chichén Itzá y Tula. *Estudios de Cultura Maya* 1:47-79.

Kurjack, Edward B. and E. Wyllis Andrews V

- 1976 Early Boundary Maintenance in Northwest Yucatan, Mexico. *American Antiquity* 41(3): 318-325.

- Lincoln, Charles E.
- 1986 The Chronology of Chichen Itza: A Review of the Literature. In *Late Lowland Maya Civilization: Classic to Postclassic*, edited by J.A. Sabloff and E.W. Andrews V., pp.141-196. University of New Mexico Press, Albuquerque.
- Maldonado C., Rubén
- 1979 Izamal-Ake, Cansahcab-Uci, Sistemas Prehispánicos del Norte de Yucatán. *Boletín de la ECAUDY* 6(36): 33-34.
- 1995 Los sistemas de caminos del norte de Yucatán. In *Seis Ensayos sobre Antiguos Patrones de Asentamiento en el Área Maya*, compilado por E. Vargas Pacheco, pp.68-92. Instituto de Investigaciones Antropológicas, Universidad Nacional Autónoma de México, México, D.F.
- Masson, Marilyn A.
- 1997 Cultural Transformation at the Maya Postclassic Community of Laguna de On, Belize. *Latin American Antiquity* 8 (4):293-316.
- Mathews, Peter
- 1991 Classic Maya Emblem Glyphs. In *Classic Maya Political History: Hieroglyphic and Archaeological Evidence*, edited by T. P. Culbert, pp.19-29. Cambridge University Press, Cambridge.
- 村上達也
- 1998 「古代マヤの空間構造に関する動態的研究－北部低地・古典期終末期を事例として－」東京大学大学院総合文化研究科提出修士論文。
- Miller, Arthur G.
- 1977 "Captains of the Itza": Unpublished Mural Evidence from Chichen Itza. In *Social Process in Maya Prehistory: Studies in Honour of Sir Eric Thompson*, edited by N. Hammond, pp.197-225. Academic Press, London.
- 1987 Capitanes del Itza: Evidencia Mural Inédita de Chichén Itzá. *Estudios de Cultura Maya* 11: 121-53.
- Moholy-Nagy, Hattuta and John M. Ladd
- 1992 Objects of Stone, Shell, and Bone. In *Artifacts from the Cenote of Sacrifice, Chichen Itza, Yucatan*, edited by C. C. Coggins, pp.99-152. Memoirs of the Peabody Museum, Vol. 10, No. 3. Harvard University, Cambridge.
- Neff, Hector and Ronald L. Bishop
- 1988 Plumbate Origins and Development. *American Antiquity* 53 (3): 505-522.
- Proskouriakoff, Tatiana
- 1970 On Two Inscriptions at Chichen Itza. In *Monographs and Papers in Maya Archaeology*, edited by William R. Ballard Jr., pp.459-467. Papers of the Peabody Museum of Archaeology and Ethnology, Vol. 67, Harvard University, Cambridge.
- Ringle, William M, George J. Bey, and Carlos Peraza L.
- 1990 Investigaciones de la zona arqueológica de Ek Balam, Yucatán. *Boletín 1989*, Consejo de Arqueología, Instituto Nacional de Antropología e Historia:115-118.

- Robles C., Fernando
- 1981 La secuencia cerámica preliminar de El Meco, Quintana Roo. In *Memoria del Primer Congreso Interno 1979*, pp.153-178. Centro Regional de Sureste, Instituto Nacional de Antropología e Historia, México, D.F.
 - 1990 *La Secuencia Cerámica de la Región de Cobá, Quintana Roo*. Serie Arqueología, Instituto Nacional de Antropología e Historia, México, D.F.
- Robles C., Fernando and Anthony P. Andrews
- 1986 A Review and Synthesis of Recent Postclassic Archaeology in Northern Yucatan. In *Late Lowland Maya Civilization: Classic to Postclassic*, edited by J.A. Sabloff and E.W. Andrews V., pp.53-98. University of New Mexico Press, Albuquerque.
- Ruppert, Karl
- 1952 *Chichen Itza: Architectural Plans and Notes*. Carnegie Institution of Washington, Publication 595., Washington D.C.
- Schele, Linda and David Freidel
- 1990 *A Forest of Kings: The Untold Story of the Ancient Maya*. William Morrow, New York.
- Schele, Linda and Mary Ellen Miller
- 1986 *The Blood of Kings: Dynasty and Ritual in Maya Art*. George Braziller, New York.
- Schmidt, Peter
- 1981 Chichén Itzá: Apuntes para el estudio del patrón de asentamiento. In *Memoria del Primer Congreso Interno 1979*, pp.55-70. Centro Regional de Sureste, Instituto Nacional de Antropología e Historia, México D.F.
 - 1994 Chichén Itzá. *Arqueología Mexicana* II (10): 20-25.
- Smith, Robert E.
- 1971 *The Pottery of Mayapan including studies of ceramic material from Uxmal, Kabah, and Chichen Itza*. 2 vols. Papers of the Peabody Museum of Archaeology and Ethnology Vol. 66. Harvard University, Cambridge.
- Stuart, David and Stephen Houston
- 1994 *Classic Maya Place Names*. Studies in Pre-Columbian Art and Archaeology No.33. Dumbarton Oaks Research Library and Collection, Washington, D.C.
- Thompson, J. Eric S.
- 1970 *Maya History and Religion*. University of Oklahoma Press, Norman.
- Tozzer, Alfred M.
- 1957 *Chichen Itza and Its Cenote of Sacrifice*. Memoirs of the Peabody Museum of Archaeology and Ethnology Vols. 11-12. Harvard University, Cambridge.
- Wren, Linnea H. and Peter Schmidt
- 1991 Elite Interaction during the Terminal Classic Period: New Evidence from Chichen Itza. In *Classic Maya Political History: Hieroglyphic and Archaeological Evidence*, edited by T. P. Culbert, pp.199-225. Cambridge University Press, Cambridge.

